

連携部会の活動を振り返り、より能動的に推進するために(2017)

連携部・藤 崎

- 1, 市配分予算運用に関する調整機能について(担当・大槌)
 - ・一定程度の成果を出していると判断しています。(今後も継続⇒Web上のTOPに掲載)
 - ・会計処理の文言修正、取扱いの是非については会計課及び教委ともにすすめている。
 - ・会計システム自体への改善については、まずしっかりシステムを履行して、それからの問題だと思います。
- 2, 学校事務運営計画と市経理の運用について(担当・佐藤)⇒事務班と連携
 - ・全市的交流と意見調整～各校の特質すべき点や改善すべき点など、もっと話し合いたかった(2本立て・研修部提案の改善案をもとに)⇒来年度も継続
 - ・コピー使用料と備品費～予算要望の当面の要として、各学校は環境改善に向けて食欲でなくてはならない。今年度実績を踏まえ0決算に向けて通年で取り組む方向性を確認する。
 - ・各学校にとって今後効果が期待できる備品の交流(今年度は…超短焦点プロジェクター～コンパクト・画像鮮明・IT授業にも威力を發揮…要検索)
- 3, 市配分予算・備品費の配分調整(担当・小林)
 - ・10月以降調整の有効性について確認。
 - ・予算の有効活用と学校現場の充足感の相違はない?→十分な意見反映をしているか?
 - ・次年度からは2名体制で継続実施
- 4, 旅費の執行調整(担当・森)
 - ・これまでの調整のなかで一番大変な年だったように思える。来年度はある程度の費目間流用ができるのならば、負担軽減の方向性が見えてくる。⇒今後とも継続
 - ・確認事項
 - ①民主的な旅費運用を目指す。
 - ②原則配分内で計画を立てる。⇒旅行命令と旅費残の整合性
 - ③家庭訪問旅費について実績処理でセンターへ要求。
 - ④旅費の実績処理(直行直帰・家族親族宅への宿泊は食卓料へ減額、研修終了後の自主研修は旅費Cutなど)
 - ⑤全体会議の決定事項は遵守する(自校だけの特例を設けない)
- 5, 「学校間連携を考察する」に関して&部内全体統括(担当・藤崎)
 - ・富良野スタンダードに向けた提起を!というご意見を頂きましたが、富良野スタンダードとは、「富良野市内事務職員の『職務確立』に向けたとりくみ」であるにとらえています。ですから、現在行われているとりくみ自体が富良野スタンダードであり、ここまできたから完成というものではないと考えます。絶えず切磋琢磨し意見を交わし合うところに生まれる昇華された結果の一つ一つがその時点での富良野スタンダードではないでしょうか。
- 6, その他, 要望
 - ・事務局から教委へ⇒来年度からは管理・学務を交えたヒアリングを確実に実施願いたい。